

○提案内容

(1)実現したい都市のビジョン

自動運転車両をはじめ公共交通全体のスマート化を含む「次世代モビリティ・システム」を実現するため、まずは北九州市の空の玄関口である北九州空港と市内へのアクセス交通となる「エアポートバス」朽網線において、自動運転車両やバス停等のスマート化の社会実証を実施し、エアポートバス及び空港利用者、インバウンドを含めた旅行者の利便性の向上、利用率向上等を図る。

さらに、この実証を足掛かりとして、市内全域の公共交通網へとハード及びソフトの両面で拡大することにより、すべての利用者の安全・安心、便利かつ高効率な公共交通ネットワークを提供する。

(2)新技術の導入により解決したい都市の課題
 ※課題については、別紙3の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください(複数ある場合は、課題ごとに対応を記載ください)

解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>本市では、北九州空港エアポートバスを含む公共交通機関全体で運転手不足が顕在化し始めており、今後、運行が困難になる路線が発生するおそれがある。また、増え続けるインバウンド旅客の需要を余すことなく受け止め、北九州空港が訪日外国人から選択されるためには、エアポートバスの利便性向上を図ることは重要な課題である。</p> <p>北九州空港エアポートバスは、3路線(①小倉、②朽網、③黒崎・折尾・学研都市)運行しているが、まずは、運行本数の多い朽網線(便数:32往復/日、料金:410円、利用者数:15万人/年)においてスマート化をはかることにより、課題解決を図っていく。</p>	<p>ア ・ オ</p>

(3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)

- ①自動運転技術(先進モビリティ製)
- ②自動運転バス総合システム(SBドライブ「Dispatcher」)
- ③バス位置情報案内システム(西日本鉄道株)
- ④スマートバス停(西鉄エムテック株、安川情報システム株、ジャパンディスプレイ株)

(4) 解決の方向性(イメージでも可)

北九州空港～JR朽網駅を結ぶ「エアポートバス」朽網線において以下を導入する。

- ①自動運転バスの導入…話題性や利用意欲の向上による利用率向上及び将来的な運転手不足の解消等による路線の維持。
 - ②車内環境の整備…アバターガイドの活用による車内見守り、多言語対応、コミュニケーション形成。
 - ③バス位置情報案内システム
…スマートフォンから運行状況をリアルタイムで把握できることによる、利便性・安全性の確保。
 - ④スマートバス停の導入
…バス停の電子化により、運行状況のリアルタイム把握、多言語対応、緊急情報通知、避難誘導等への利用。
広告媒体としての収入源確保、観光情報の発信、無線カメラ等と連動させた防犯ネットワークとしての活用など、利用者利便の向上、安全・安心など各種サービスの提供。
 - ⑤キャッシュレス決済…既存のICカードやQRコードを利用したキャッシュレス化を図る。
- これらを総合的に組み合わせ、利用者が快適かつ満足度の高い「エアポートバス」の実用化に向けた実証を行う。

※現在、小倉駅バスセンター及び北九州空港において、動画によるコミュニケーションツール「スマートアバター」が4か国語で案内をするデジタルサイネージの設置を検討している。

(5) その他

平成30年4月に、北九州市において自動運転バスの技術実証の実施(SBドライブ・先進モビリティ)経験がある。
また、平成30年11月には本市が特区であることを生かして「北九州市高度技術実証ワンストップサポートセンター」を設立しており、実証フィールドの提供、規制緩和への対応など実証を行いやすい環境を整備している。
さらに、自動運転の実証にあたっては「北九州市アップデートモビリティ研究会」を組織しており、次世代モビリティを活用した公共交通の課題解決策などを検討・研究していることから、この座組において、地元交通事業者、関係省庁、地元協議等もスムーズに実施できる。

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
港湾空港局空港企画課 産業経済局企業立地支援課	大部・椿 下山・中原	(093)582-2308 (093)582-2065	shunsuke_oobu01@city.kitakyushu.lg.jp sanae_shimoyama01@city.kitakyushu.lg.jp